



シンポジウム

「家族の絆における食の大切さ」

平成25年6月23日（日）10:00~12:00

県立広島大学 広島キャンパス 2棟1階 2143大講義室



“家族の絆”と聞いて真っ先に思い浮かぶのは、サザエさん一家のような「家族団欒」ではないでしょうか。しかし、高度経済成長期以前と以後では家族形態は大きく変化し、サザエさん型団欒は影を潜めました。昨今では、家族成員の生活スタイル(家での過ごし方)の多様化が進み、孤食や個食が社会問題として取り上げられるまでになっています。

当シンポジウムでは、「幸福感を伴った家族間コミュニケーション」「家族による時空間・体験の共有」「躰の場」といった家族団欒が持っていた“機能”に注目し、『現代の食事場面における幸せ(「楽しさ」「美味しさ」「感動)とは何か?』という観点から、立場の異なる4人のパネリストに意見をうかがいます。

これを機に、「食」から家族の在り方について、一緒に考えてみませんか？

司 会：日本放送協会広島 小松 宏司 氏

ファシリテーター：曹洞宗普門寺副住職 臨床心理士 吉村 昇洋 氏

・・・ 出演者からのメッセージ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「日本がめざす家族、地域の絆」

神奈川県立保健福祉大学 学長 中村 丁次 氏

栄養学は、食物に命の素を探し求めて、それらを栄養素と名付けました。従って栄養素の集合体は命の保証をしてくれます。しかし、これらを血液に注入するだけでは、人々がQOLの高い生活を手に入れることはできません。家族や地域の人々と食卓を囲み、楽しく、おいしく食べる事にどのような意味があるのか？ このような食卓が失われつつある現在、私たちはどのようにすればいいのか？ 一緒に考えてみたいと思います。

茶道上田宗箇流 正教授 山本 宗佳 氏

- ・学校教育の場で伝統文化が今、何故求められるか？ 心のありさまが表れた体の動き。『所作』
 - ・「楽しさ」大好きな人と一緒に、好きな事をしている時間。最高に幸せ！ 『家族の在り方』
 - ・「美味しさ」真っ白いお米くつつ・グツグツいい香り、手にあったかおいしい！ 『五感』
 - ・「感動」は心の汚れを洗い流せる。どんな日でも毎日新鮮でいい日だという。 『感謝』
- ～ 幸せで豊かな人生を送るため、まずはシンポジウムでお会いしてから ～

曹洞宗普門寺副住職 臨床心理士 吉村 昇洋 氏

私は、自分のお寺での精進料理教室をはじめ、各種講演や雑誌での執筆など、精進料理を軸とした活動を行っています。修行した曹洞宗大本山永平寺で“精進料理”と出会い、その語が料理の1ジャンルを指すものではなく、仏道修行の実践としての食事という、修行者の“行為”を含んだ概念であることに気付きました。この作法を中心とした食行動に存在するちょっとした幸福感。その辺のお話を、心理学を交えながら食育の大切さを考えていきたいと思います。

広島市立大塚中学校 保護者 藤原 志保 氏

大学生と中学生を持つ二児の母親です。育児がひと段落した数年前から、メディアのモニター、番組審議委員(2011～2012年)等を勤めさせていただいております。そのご縁で今回『食育推進全国大会』にお招きいただきました。食育の専門家ではございませんが、親として、家庭の食を預かる主婦の立場から、会場にお集まりの皆様と共に、明日からの食生活が、より良いものになるヒントを見つけたいと思います。

